

第3章 めざす京都丹波地域の姿(地域の将来像)

(1) 戦略目標

京都丹波地域が、今後10年から20年先を見据えてめざす地域の将来像を

“京都丹波の^{たから}資源をいかす 交流・活力の森の京都”

という言葉(キーワード)で要約し、ビジョンの戦略目標(明確な意図を持ち、住民の皆さんに共感・共有していただき、共に実現をめざして実行する目標)としています。

(2) めざす地域の姿

■ 互いに支え合い、みんなでつくる生き生きと暮らせる「京都丹波」

地域に暮らす人々が生きがいを持って安心・安全な生活を送るためには、地域の課題は地域で解決していく必要があります。

京都丹波地域では、これまでの活発な地域活動や大学連携の取組、また全国初となる亀岡市のWHOセーフコミュニティ認証等の成果を踏まえ、地域住民、市町・京都府等の行政、NPO法人をはじめとする数多くの地域活動団体、さらには大学生等の地域の若者が、手に手を取り合いながら協働の取組を進め、様々な地域課題の解決を図っていきます。

子どもたちや若者が楽しみながら参加できるような地域活動を推進し、こうした取組を通じて、自分たちが生まれ育った地域、また、自分たちが学ぶ地域に誇りと愛着を持って、未来の「京都丹波」を考えるきっかけをつくっていきます。

“先人からの贈り物”とも言える、「京都丹波」の豊かな自然環境や個性あふれる歴史・文化をいかしながら、自立と協働を基本に、そこに集うあらゆる人々がお互いのことを考え、思いやる中で、人権が尊重され、あたたかで活気あふれる地域づくりをめざします。

災害や事故等に強い安心・安全で住みやすい地域で、人権が尊重され、ユニバーサルデザインの考え方が根付いた地域

をめざします。併せて、京都丹波地域を「住みやすい、住み続けたい」地域にするために、一人ひとりが健康で、持てる力を十分発揮し、互いに支え合うことのできる住民主役の地域づくりをめざすとともに、安心して出産・子育てができ、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域づくりを進めます。



京都丹波 地域交流フェスティバル

■ 技や知恵が輝き、ひと足のばしですぐに手が届く「京都丹波」

京都丹波地域には、京阪神地域等へのアクセスの良さを背景に国内外の産業を支える高い技術力を有する多様な業種の企業が集積しています。

また、豊かな自然の恵みと地域住民が守り伝えてきた伝統文化、歴史ある社寺、保津川下り、湯の花温泉、ブランド京野菜をはじめ全国的な知名度を有する観光資源、農林産物等の地域資源を有しています。

さらに「京都第二外環状道路(にそと)」の開通、京都縦貫自動車道の整備、京都舞鶴港の機能拡充等、京都丹波地域を取り巻く基盤整備も進んでいます。

京都丹波地域が持つ産業集積、地域資源、立地条件等の多様な強みをいかし、新規立地企業の誘致促進、中小企業へのハンズオン支援、府立南丹高等学校総合学科テクニカル工学系列等と連携した地域一体となったものづくり人材の育成支援等を通じ、ものづくり産業の振興、京都丹波立地企業の経営環境の充実を図ります。

また、観光客が歩いて楽しい京都サンガタウン商店街化や、地域住民がふれあえる商店街づくり等、それぞれの地域の特色をいかしたまちの賑わいづくりにより商業の活性化を図ります。

交流人口の変化や交通アクセス等の変化に対応した新たな京都丹波観光プロモーションの展開、京都丹波まるごとスタジアム化によるスポーツ観光推進等の京都丹波の新時代にふさわしい戦略的観光プログラムを推進することにより、国内をはじめ海外からの誘客の促進を図ります。

これらの取組を通じて、京都丹波地域において新たな交流・連携を創出することにより、京都丹波地域の持続的発展をめざします。

■ 地域資源や特性・強みをいかし、若い世代が定住できる農林業のステップアップと新たな産業興しを行う「京都丹波」

京都丹波地域は、古くから京の台所を支えてきた食の宝庫ですが、農林業の担い手不足が深刻化する中、農業経営者の確保に加え、これまで培われてきた京都丹波の農産物の高品質を維持することも同時に必要です。

このため、亀岡盆地に広がる約1,500haにも及ぶほ場整備田を有効活用し、担い手不足と経営の継続性を確保するため集落営農組織の法人化を図るとともに、収益性の高い京野菜の分業化や省力機械化による大規模経営体づくりをめざします。また丹波くりでは、新規参入者の確保から流通・販売までの総合的な対策が大切です。

今後も引き続き、地場産業としての農業を振興するとともに、消費地に近い優位性に加え、農業や食、健康に関する高等教育機関や食品関連企業が数多く立地する強みをいかした農商工連携と人的ネットワークを軸に年商1億円をめざす経営体づくり等人材育成のための取組を進めます。

過疎化や高齢化が進展する中、医療や福祉分野とも結び付いた新たな医福食農連携の構築を進め、京都丹波ならではの川下需要に直接対応したニッチ商品の契約栽培、障がい者等の就労支援、高齢者の生きがいづくり等、新たな付加価値を生み出す京都丹波の食をいかした健康づくりを進めます。

また、森、里、川の豊かな自然と道路交通網の拡充をいかし、京都丹波ならではの「食や森」を満喫できる、「道の駅プロジェクト」やジビエ料理の普及推進、「京都丹波・食と森の交流協議会」を軸にした農業・農村交流体験のビジネス化等の展開を図ります。

さらに、豊かな森林資源を有するため、木材の生産地としてだけでなく、集成材をはじめとする製材や木材加工、未利用資源である木質バイオマスまでも資源やエネルギーとして最大限活用し、林業の6次産業化をはじめ新たな産業おこしにつなげるとともに、マツタケ等の特用林産物を含めた森林から里山に育まれた「山の幸・里の幸」の有効利用を進めます。

人口減少が進む中、市町と連携し、全国から多彩な人材が集まる特色ある教育機関の集積と、スポーツ、健康・医療、農林業等の多様な地域資源を最大限活用し、スポーツ・健康・文化等に関する新複合産業の創出と地域に定住する新たな担い手の育成を進めていきます。



年商1億円をめざす農業経営体(黒大豆枝豆)



林地残材を利用したパレット



教育体験旅行(わら結い)

■ 様々な交流があり、だれもが安心・安全・快適に暮らせる「京都丹波」

人と自然、人と人、地域と地域、上流と下流、都市と農山村等、様々な交流があり、だれもが安心・安全で快適に暮らすことができる「交流の郷」づくりや、地域の個性をいかしてその魅力が光り輝き、広域的な交流拡大の礎となる基盤が整備された地域づくりをめざします。

道路整備を推進し、国道・市町村道・農道・林道とともに様々な交流ができる基盤となる道路ネットワークの形成を図るとともに、洪水・土砂災害対策を推進し、だれもが安心・安全で快適に暮らすことができる地域づくりをめざします。

また、府民協働による道づくり・川づくり、ふるさと環境づくり、人にやさしいまちづくりが進む地域づくりをめざします。